

# 県遊協

井上理事長  
年頭のおあいさつ

★2014年「年頭挨拶」

あけましておめでとうございます。早いもので県遊連を解散し山形県遊技業協同組合を設立し2年経ちました。支部体制も最終目標でありました県内4支部体制となりお陰様で組合活動も活発になってきております。業界は益々貸し玉・メダルの低価格化が進み、売上・利益の確保に組合員の皆様は日夜奮闘されていることと思います。様々な広告規制、イベント規制が続く中で、今年は消費税値上げ、カジノ法案の本格的審議が始まります。監督官庁の消費税に対する見解が示され、私達ホール業界にとって大変厳しい状況になりました。業界の参加人口が一千万人割れ目前と言われ始めています。この困難を打ち破るには業界等価という考えから市場等価という発想に転換すべきだと思っております。市場等価という発想の転換が新規需要を開拓する有効な手段だと確信しています。実現に向けてはいくつもの困難が待ち構えていると思われませんが、業界生き残りのためには絶対必要な転換だと思っております。



山形県遊技業協同組合  
TEL 023-615-6922  
FAX 023-615-6923  
Eメール yamagata@zennichiyure.n.or.jp

新年賀

エコパチンコについても、全日遊連内でも議論が深まってきていますが、メーカー団体の中でも意思統一がなされていなくて、まだ実態が良く見えてきません。ホール団体ばかりでなく、メーカー団体や関連産業団体でこれからの更なる広い議論が必要不可欠です。パチンコの参加人口の減少に歯止めがかからない危機的状況にあるホール業界にとって、実現するかしないか不透明な状況で、しかも実現するにしても時間のかかるエコパチンコではなく、今現在のCRシステムのことで、もっとやれることが沢山あると感じています。



この問題については、全日遊連内でも活発な議論が行われています。市場等価論議と併せて、既存のシステムの中で気軽に遊べるパチンコ・パチスロの遊び方を開発して新しいお客様・一度パチンコを離れてしまった休眠中のお客様の獲得に業界一丸となって進んでいく年にしなければ、消費税値上げやカジノ法案に埋没してしまうことになりかねない業界存続の危機になる転機の年だと思っております。組合員皆さんの更なるご協力をお願いして年頭のご挨拶としたいと思います。今年も一年よろしくお祈りいたします。

## 『年頭所感』

全日遊連理事長 青松英和

明けましておめでとうございます。皆様にはご家族、従業員の皆様共々輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。皆様には旧年中全日遊連の諸活動に對しまして温かいご支援とご理解を賜りましたことに厚く感謝申し上げます。さて、昨年は政府の大胆な金融政策の実施により各種景気指数は上向いてきましたが、景気の体感指数は未だ横ばいのままだというのが多くなるとの発言に表れています。今年の実体経済の面でも景気が上向いていると実感したいというのが人々の強い希望だと思えます。その思いは私達の業界においても同じであります。しかし私は近年の業界の低迷を世間の景気の悪さにその全ての責任を負わせるには、些か無理があると思っております。その理由は、私達が社会の動きに合わせて業界を変革する努力を怠ってきたことも業界低迷の大きな要因であると考えらるからです。戦後六〇有余年の間にあらゆる産業、業種が時代の変化や社会の変貌に合わせて大きくその姿を変えていく中で、旧態依然その基本的体質を変えなくして発展してきた私達の業界を社会がそのまま受け入れることは限界に近づいていると強く感じています。



私は今年の漢字一文字というある業界紙の企画で、「機」という字を選びました。「機」という字には「何かを起こすきっかけ、時期」という意味があります。今年こそ業界挙げて業界変革の「機は熟した」年にしなければなりません。決して「機を失した」年にしてはならないのです。昨今、所謂カジノ法案が喧しい中で、パチンコ・パチスロが身近で手軽な大衆娯楽であることを再認識して、先人の英知に倣い、風営法を遵守することを以てお客様に十分なる出玉感のある遊びを体感して頂くことが、ホール営業を健全に永く維持していく上で正しい選択だと思えます。「機」にはまた別に「織る」という意味もあります。業界大転換の年にあたり、全日遊連は他団体ともしっかりと手を携え、新しい業界像を織り上げていきたいと考えています。結びに、本年の皆様のご健勝、ご発展を祈念し、併せて全日遊連への変わらぬご理解、ご協力をお願い申し上げます。私の年頭のご挨拶といたします。

## 7年後・東京五輪開催

2020年の東京五輪をにらみ、カジノの道を開く動きが活発化している。パチンコ業界も一段の飛躍を期待する向きも多い。東京五輪の開催決定は明るいニュースだが、風俗営業の各業種は慎重な舵取りが必要らしく、これまでの開業国では風俗営業の停止措置を取った国もあるという。50年前の東京五輪でも、警視庁などから当業界に対し、環境浄化の徹底を求められている。半世紀前とは状況が違うので、7年後の東京五輪でどんな措置が講じられるかは何とも言えないが、長野五輪やワールドカップ開催時に要請のあった「遊技機の入替自粛」などが求められるのか。国を挙げての一大イベントは、業界にとつてめでたいとばかり言っていられない。事情があるようだ。東京五輪を前向きに捉え、これを機にパチンコ・パチスロという「射幸性の伴う娯楽」を世界にアピールすべきという声が業界内に出ているという。今更の話したが、パチンコ営業はギャンブルとは一線を画したものであり、我が国のその時々々の事情で変遷を重ねてきた娯楽である。五輪を機に、世界の人々にその面白さ、奥深さを発信するのも面白いのではないか。



## IR推進法案・国会へ提出

去る12月5日、自民・維新、生活の3党がカジノを含む総合リゾート（IR）の国内整備を政府に促す「IR推進法案」を国会に共同提出しました。法案を取りまとめた超党派のIR議連は11月12日カジノ開設を急ぐ目的で、実施法制定に関する1年前倒しを決議した修正決議は、今回提出した推進法案に盛り込まれております。同法案は、本年一月に招集される通常国会で審議される見通しです。1〜3月は予算関連法案や税制改正、社会保障問題が山積している関係から、4月以降の通常国会後半に審議し、成立を図るとしているもようです。注目しましょう。

## 新年明けましておめでとうございます

昨年中は県遊協の運営にご協力いただき誠に有り難うございました。本年も宜しくお祈り申し上げます。平成二十六年 元旦  
山形県遊技業協同組合  
理事長 井上 静夫  
外 役 職員一同



## 編集後記

組合員の皆様、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。さて、今年の景気はどうなるのでしょうか。アベノミクスの効果で上向き傾向が続いていますが、不透明な部分も多く、まだまだ油断出来ない一年になりそうな気配です。大震災の復興も今年から本格的になりそうだが、復興予算も十分に手当てされていると聞いています。いよいよカジノ法案も国会で審議される。我々業界にとつても波風の多い年になりそう。覚悟してこの一年を迎える必要があります。 熊坂

